

大学等名	岐阜協立大学
プログラム名	データサイエンス副専攻リテラシーレベル

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

- ② 対象となる学部・学科名称

--

- ### ③ 修了要件

プログラムを構成する「情報リテラシーA」2単位、「統計学」2単位、合計4単位を取得すること。

必要最低科目数・単位数	2 科目	4 単位	履修必須の有無	令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定
-------------	------	------	---------	------------------------

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

[illegible]

- ⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

[illegible]

- ⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

[illegible]

- ⑦「活用に応じた様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

[illegible]

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
統計学	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
統計学	4-1統計および数理基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・社会で起きている変化について(Society5.0)「情報リテラシーA」(2回目)
	1-6	・データ・AI利活用の活用領域と最新動向(AI最新技術の活用例)「情報リテラシーA」(2回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・社会で活用されているデータ(調査データ調査と実験データ)「統計学」(1回目)
	1-3	・データ・AI利活用の活用領域と最新動向(データ・AI活用領域の広がり)「情報リテラシーA」(2回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ・AI利活用のための技術について(データ解析)「情報リテラシーA」(7回目)
	1-5	・データ・AI利活用の現場(データサイエンスのサイクル(データの取得・管理・加工))「情報リテラシーA」(3回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・データ・AI利活用における留意事項(個人情報保護、データ倫理)「情報リテラシーA」(1回目)
	3-2	・Windows Defenderによるセキュリティ(情報セキュリティ)「情報リテラシーA」(1回目) ・データを守る上での留意事項(情報セキュリティ)「情報リテラシーA」(1回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・統計学の概要と統計情報の正しい理解「統計学」(1回目) ・データの種類(量的変数、質的変数)、データの分布「統計学」(2回目) ・度数分布表とヒストグラム「統計学」(3回目) ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「統計学」(4回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差)「統計学」(6回目) ・標準化と偏差値「統計学」(7回目) ・データ表現(散布図)と相関係数「統計学」(8回目) ・推測統計の考え方と確率、母集団と標本抽出「統計学」(10回目) ・期待値、分散「統計学」(14回目) ・より進んだ統計学の展望: 打ち切りや脱落データ・層別の必要なデータなど「統計学」(15回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ)「統計学」(3回目) ・データ表現(散布図)と相関係数「統計学」(8回目)
	2-3	・データの集計(平均)「統計学」(5回目) ・データの並び替え、ランキング「統計学」(15回目) ・データの解析ツール(スプレッドシート)「統計学」(15回目) ・表形式のデータ(csv)「統計学」(15回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

データサイエンス副専攻全体では、卒業後の社会で必要とされるデータサイエンスの活用の基礎力育成及びデータサイエンスの進歩による社会の変化、技術の革新に対応する柔軟な力を養うことを目的とし、その導入である本プログラムにおいては、主にデータサイエンス活用の基礎力を育成する。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「**数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版**」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容

大学等名 岐阜協立大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 72 人 (非常勤) 52 人

② プログラムの授業を教えている教員数 6 人

③ プログラムの運営責任者
(責任者名) 菊本 舞 (役職名) 教務部長(経済学部 准教授)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)
データサイエンス副専攻運営委員会
(責任者名) 菊本 舞 (役職名) データサイエンス副専攻運営委員長(経済学部 准教授)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称
副専攻運営委員会規則

⑥ 体制の目的
データサイエンス副専攻における授業実施、その他、関連事項に関する連絡・調整を行うことを目的とする。

⑦ 具体的な構成員
データサイエンス副専攻運営委員長(教務部長) 経済学部 准教授 菊本 舞
経営学部 教授 中川 裕司
経営学部 教授 及川 浩和
経済学部 准教授 後藤 智弘
看護学部 教授 緒方 京
教務課 課長 塚原 康之
教務課 主事 米村 和也

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	3%	令和6年度予定	8%	令和7年度予定	13%
令和8年度予定	19%	令和9年度予定	24%	収容定員(名)	1,720
具体的な計画					
令和5年度より、全学部の「学生要覧・履修の手引き」にデータサイエンス副専攻のページを掲載して周知を図っている。また、入学時のオリエンテーションにおいても当該プログラムを含むデータサイエンス副専攻全体について説明を行っている。 「情報リテラシーA」は、全学部で必修科目として開講しているため、今後は履修者数・履修率の向上が期待できる。また、「統計学」は1年前期の開講科目、選択科目であるが、2年次以降も履修可能であることから、2024年4月の時点で令和5年度入学者(2年次生)約40名が履修登録しており、学年進行とともに令和5年度以降の入学者のうち1年次に未履修の学生が履修する可能性があり、このことから今後の履修者数・履修率の向上が見込める。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「情報リテラシーA」は、全学部で必修科目として開講している。「統計学」は、学部に関係なく希望する学生全員が受講可能となるよう考慮して時間割を作成している。
--

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

入学時のオリエンテーションで当該プログラムを含むデータサイエンス副専攻全体についての説明の時間を設けて実施している。また、全学生が閲覧する「学生要覧・履修の手引き」にデータサイエンス副専攻のページを掲載して周知している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

専任教員が学業について質問や相談に応じている。また、教務課でも事務職員が履修などのサポートを行っている。コンピュータの利用については、学生が自由に利用できるコンピュータを用意しているほか、BYODを推進している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間内に質問を受け付けているほか、専任教員がオフィスアワーを設け、質問への対応や学習指導が受けられるようにしている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

データサイエンス副専攻運営委員会	
(責任者名) 菊本 舞	(役職名) データサイエンス副専攻運営委員長(経済学部 准教授)

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムの開始初年度である令和5年度の履修者は50名(経済学部7名、経営学部31名、看護学部12名)、修了者は18名(経済学部4名、経営学部7名、看護学部7名)であり、全学部において履修者、修了者があった。本プログラムを構成する科目のうち、「情報リテラシーA」は全学部必修科目となっているため、「統計学」の履修者数を増加させることが課題である。また、「統計学」は履修者50名のうち単位取得者が21名、単位取得率42%であり、これを改善していくことも修了者の増加に繋がる。
学修成果	本プログラムを含むデータサイエンス副専攻全体で、「卒業後の社会で必要とされるデータサイエンスの活用の基礎力」、「データサイエンスの進歩による社会の変化、技術の革新に対応する柔軟な力」を身につけることを目標とし、その導入である本プログラムにおいては、主にデータサイエンス活用の基礎力を育成することを目的としている。受講者に対してはプログラムの科目ごとに「授業アンケート」を実施し、これにより学生の理解度、興味関心等を把握している。これらの結果をもとに、科目担当の専任教員を含む副専攻運営委員会において、学修成果の検証を行い、授業内容・授業方法の改善を図っている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	プログラムの科目ごとに授業アンケートを実施し、学生の理解度を把握している。授業内容を理解できたかを問う設問で、「情報リテラシーA」では77.0%の学生が「とても良く理解できる」、「ある程度理解できる」と回答、「統計学」では55.8%の学生が同様の回答をしている。また、「学生が理解できているかの確認をしながら授業が進められているか」の設問から、「小テスト、課題等の実施」「過去の授業の振り返り」等の方法を用いて、理解度を確認しながら授業が進められていることが分かる。一方、理解できていない旨の回答も、「情報リテラシーA」7.0%、「統計学」14.0%と一定数あることから、これらの学生への指導、フォローが課題である。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	プログラムの科目ごとに授業アンケートを実施して、興味・関心が持てるようになったかを把握している。この設問において、「情報リテラシーA」では66.6%の学生が「大いに関心が持てる」または「関心が持てる」と回答、「統計学」では53.5%の学生が「大いに関心が持てる」または「関心が持てる」と回答している。後輩等他の学生への推奨度は明示的には調査していないが、上述の授業アンケートの設問や自由記述式のコメントから、推奨できると評価している学生が多いと考えられる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムは令和5年度から開始しており、プログラムを構成する科目のうち、「情報リテラシーA」は全学部必修科目となっていることから、プログラムを継続していくことによって履修率は向上していく予定である。一方の選択科目「統計学」は、開講年次以降の学年においても履修可能であることから、新入生への周知や授業改善、学修支援の取組を充実させるとともに、2年次以降の学生へも周知等の取組をすることによって履修者数、単位取得率を増加させることが可能である。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和5年度からのスタートであることから、修了者を輩出するのはしばらく先となるが、現在も継続して行っている卒業生アンケートや就職先企業等へのアンケートなどに、当該副専攻修了者に対する評価、活躍状況などをたずねる質問項目を設けることによって、学外からの評価等を得る予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	上記の就職先企業等へのアンケートには、データサイエンス副専攻の教育内容等に関する質問項目も設け、産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見を得、プログラムの改善に活用する予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	各講義において、数理・データサイエンス・AIの身近な活用事例や社会の実データ・実課題を用いて学生の動機づけを図っている。 「情報リテラシーA」では身近な活用事例の紹介を拡張し、「統計学」では実データである官庁の統計データを用いて学ぶことで学ぶ楽しさや意義を理解できるよう取り組んでいる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	データサイエンス副専攻運営委員会において、学生の修了状況や、授業アンケートの分析を行い、「分かりやすさ」の観点から教材や授業実施方法の改善策を検討している。また、定期的に授業担当教員へのFDを行うことにより、授業の水準の維持・向上を図っている。

情報リテラシーA	1年前期	2単位	必修	及川 浩和・杉原 健一・杉浦 明弘・市野 昌宏・平田 美歩（代表教員 及川 浩和）
[関連する資格・履修制限等]：				
【科目英名】 Information Literacy A				
必修・選択の別、関連する資格・履修制限等 必修				
【ナンバリング】 INF101/INF101-INF101/INF101				

【授業の目的】 私達の取り巻く環境は経済発展と社会的課題の解決を両立する未来社会（Society5.0）の実現に向けて大きく変化しています。社会やビジネスにおける課題を解決し新しい価値を生み出すために必要な情報活用能力を身に付けることが重要です。この授業では、学生生活を送る上で必須とされる課題レポートや論文ならびに研究発表用資料の作成に必要な知識を身に付けるとともに、ビジネス社会で必要とされるビジネス文書の作成方法について習得します。
【到達目標】 1. コンピュータに関する基礎知識を有し基本操作ができる。 2. 文書作成、帳票作成、発表用資料作成、ビジネス文書作成ができる。 本授業は、以下のディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）と関連しています。 人文・社会・自然科学や情報処理に関わる基礎的素養を修得し、かつ外国語や外国文化を理解する能力を持つ。
【授業の方法】 ・授業はパソコンを利用した実習形式で行う。 ・学習資料の提示と課題の提出等は、Office365による学習支援環境（Teams）を利用する。

【授業計画】	
回数	内容
第 1回	ガイダンス（Office365による学習支援環境（Teams）、Windows Defenderによるセキュリティ、データを守る上での留意事項、データ・AI利活用における留意事項）、文字入力（ローマ字入力とかな入力、ひらがな、カタカナ、アルファベット、漢字記号、IMEパッド）文章の入力・訂正（文節変換、文字の削除、再変換）
第 2回	社会で起きている変化について（Society5.0）、データ・AIの活用領域と最新動向、文書の作成（基本的な文書の構成、右揃え・左揃え、センタリング（中央揃え））
第 3回	文字の拡大と縮小（文字サイズの変更、文字の拡大と縮小）、文字の修飾（下線（アンダーライン）、網かけ）、データ・AI利活用の現場
第 4回	表を活用した文書の作成（表の挿入・文字入力、表の列幅の調整、表内のセンタリング・均等割り付け）
第 5回	表の編集（行の挿入、行の削除、セルの結合・配置、線種の変更、セルの網かけ（塗りつぶし）表のスタイル）
第 6回	画像や図形を活用した文書の作成（ページの色、ページ罫線の利用、ワードアートの利用、文字の効果、図形の描画・回転・コピー・効果・挿入・画像の配置・サイズ変更、文字表示倍率の変更、テキストボックスの挿入）
第 7回	表計算ソフトとは（ワークシートの表示、表計算ソフトでのカーソル、ブック、表計算ソフトでの文字と数字、データの編集、オートフィル）、データ・AI利活用のための技術について（フラッシュフィル、アドイン）
第 8回	データ入力の基礎（計算式の入力、再計算と演算子、表示形式の変更、列幅の変更、表示位置の変更、書式の変更）
第 9回	関数を使った計算式（合計（SUM）、平均（AVERAGE）、最大（MAX）・最小（MIN）、数を数える（COUNT・COUNTA））
第10回	小数点とセルの参照（パーセントスタイルと小数部表示の調節、小数点を操作する関数、相対参照と絶対参照、割合）、罫線、行の挿入
第11回	グラフ（グラフの作成、項目の追加、離れたデータを使ったグラフ）
第12回	条件判定と順位付け（条件判定（IF）、IF関数の使い方、複合条件による判定、順位付け（RANK、EQ））
第13回	検索関数の利用（列の検索（XLOOKUP）、条件に一致するセルの計算（COUNTIF・SUMIF））、Excelの便利な機能（セルの参照機能、文字列の結合、セルの条件付き書式(1)、セルの条件付き書式(2)、並べ替え（ソート）、フィルター、セルの結合）、データの分析手法
第14回	プレゼンテーションの作成（文字修飾と図形の活用、グラフの活用、SmartArtの活用、表の活用と画像の挿入、ワードアートの挿入、スライドショーと資料作成、データの表現手法）
第15回	Officeのフォトレタッチ機能（明るさとコントラストの調整、画像の切り出し（トリミング、色調の変更）、アート効果、画像の合成）
【受講前提条件（必須科目）】 なし	
【受講上の留意点】 学習課題の提出期限を厳守すること。	
【時間外での学修】 ・事前2時間：講義資料・教科書をよく読み、学習内容や操作方法について理解しておくこと。 ・事後2時間：学習課題を完成させ提出すること。	
【課題とフィードバック】 毎時間の講義で学習課題を課す。学習課題はTeamsを介して提出すること。提出された課題は評価・コメントのうえ返却する。	

【 成績評価 】 ・到達目標の「コンピュータに関する基礎知識を有し基本操作ができる，文書作成，帳票作成，発表用資料作成，ビジネス文書作成ができる」について，その理解度・習得度を「学習課題」を以って次の配点で評価する。 ・学習課題（100%） ・学習課題は1課題につき10点満点で採点する。第1回から第15回までの講義で課された学習課題の得点合計を100点満点に換算し評価する。
【 教科書・その他 】 30時間でマスターOffice2021（実教出版），1,150円，ISBN978-4-407-35937-4
【 メールアドレス等 】 ・科目担当者へのTeamsのチャット
【 関連ホームページ 】 なし

統計学	1年前期	2単位	選択必修	後藤 智弘
[関連する資格・履修制限等]：				
【科目英名】 Statistics				
必修・選択の別、関連する資格・履修制限等				
【ナンバリング】 GNR108/GNR108-GNR108/GNR108				

【授業の目的】 経済や社会について、客観的データに基づいて考察するためには、基本的な統計学の習得が必要です。実データである官庁の統計データを「読む,説明する,扱う」ための基礎を習得することを目的とします。 【到達目標】 基本的な統計学の用語を理解し、それらを活用して実際のデータについて考察や言及ができることを目的とします。この授業で学ぶ内容は、以下の本学経済学科のディプロマポリシーに直接結びついています。 ・人文・社会・自然科学や情報処理、日本語の文章表現に関わる基礎的素養を修得し、外国語や外国文化を理解する能力を持つ。 【授業の方法】 講義形式で行う。基本的な計算の練習や単純なデータの読み取りの練習の時間を設ける。

【授業計画】

回数	内容
第1回	統計学の概要と統計情報の正しい理解，社会で活用されているデータ（調査データと実験データ）
第2回	データの種類（量的変数，質的変数） データの分布
第3回	度数分布表とヒストグラム，データ表現（棒グラフ，折線グラフ）
第4回	五数要約と箱ひげ図 代表値（平均値，中央値，最頻値） 代表値の性質の違い（実社会では平均値＝最頻値でないことが多い）
第5回	データの集計（平均）
第6回	データのばらつき（分散，標準偏差）
第7回	標準化と偏差値
第8回	データ表現（散布図）と相関係数
第9回	回帰直線
第10回	推測統計の考え方と確率、母集団と標本抽出
第11回	順列・組合せ
第12回	確率の基礎
第13回	確率変数と確率分布
第14回	期待値、分散
第15回	より進んだ統計学の展望：打ち切りや脱落データ・層別の必要なデータなど データの並び替え，ランキング データの解析ツール（スプレッドシート） 表形式のデータ（csv）
【受講前提条件（必須科目）】	
【受講上の留意点】	
【時間外での学修】 予習：次回講義のプリントを精読し，理解できていること，わからないことをまとめる。（2時間） 復習：理解の確認のための練習問題を提示するので必ず自力で解く。（2時間）	
【課題とフィードバック】 復習のための課題を課し，解説と評価を行う。	
【成績評価】 講義時間中の小テスト（3回，合計100点）で評価する。	
【教科書・その他】 なし	
【メールアドレス等】 tomohiro@gku.ac.jp	
【関連ホームページ】 なし	

2023

岐阜協立大学

学生要覧・履修の手引 経済学部・経営学部

データサイエンス副専攻

副専攻は、多様な科目からテーマに合致する授業科目を一つのまとまりを持った学問領域として体系的に構成し、主体的な学びの機会を提供するものです。

データサイエンスは、デジタル社会の「読み・書き・そろばん」と言われ、統計学やIT、数学、経営学などさまざまな研究分野から成り立つ学問です。私たちは、社会生活のすべてのシーンでデータを使っています。この先も人工知能（AI）の助けを借りながら、社会活動のすべてがデータとして蓄積され、瞬時に解析され、問題があればそれを発見し、対処していく必要があるでしょう。データサイエンスを扱うには、理系の情報などの知見が必要ですが、人文社会系の学問も重要視されています。データサイエンス副専攻は、文理融合を軸とし、これからの社会でよりニーズが高まるデータサイエンスのスキルを身につけることで、さまざまなキャリアへの道を切り拓くことができます。

(1) データサイエンス副専攻 学修の目的

1. 学部を問わず、卒業後の社会で必要とされるデータサイエンスの活用基礎力を育成すること。
2. データサイエンスの進歩による社会の変化、技術の革新に対応する柔軟な力を養うこと。

(2) データサイエンス副専攻の学修により期待される人物像

【経済学部】

現実の経済社会が直面する課題解決のための立案・評価には、証拠（エビデンス）に基づく政策立案（EBPM：evidence-based policy making）が必要です。経済統計をはじめとする様々な客観的データを適切に取り取り、経済理論にもとづいてデータを分析することで、課題の現状と解決の可能性を探っていくことが可能となります。近年、データについての適切な読み取り方、分析の考え方・方法などは、経済・経営・看護などの専門分野・研究対象に関わらず「データサイエンス」の理解と能力として共通化してきています。経済学部の副専攻「データサイエンス」では、経済学の論理的・実証的な考え方に加えて、「データサイエンス」の知識・技術の基本を習得し、データにもとづく様々な議論・検証に参加できる能力をもった人材の育成を目指します。

【経営学部】

DX（デジタルトランスフォーメーション）推進のベースとなるのは、「データサイエンス」の素養であり、それを担う専門家であるデータサイエンティストは、現代でもっとも需要が高い職業の一つとされています。もちろんデータサイエンティストに必要とされる知識やスキルは、理系の技術のみならず、ビジネス・スキルとデータ分析能力も必要になってきます。経営学部の副専攻「データサイエンス」では、データ分析能力を持ったビジネス・パーソンを目指します。

(3) 副専攻登録

副専攻の課程を履修するには、各年次の履修登録時に所定の副専攻登録を行わなければなりません。課程登録には、特別な費用は必要ありません。データサイエンス副専攻を修得希望の学生はカリキュラムマップに沿った履修を推奨します。

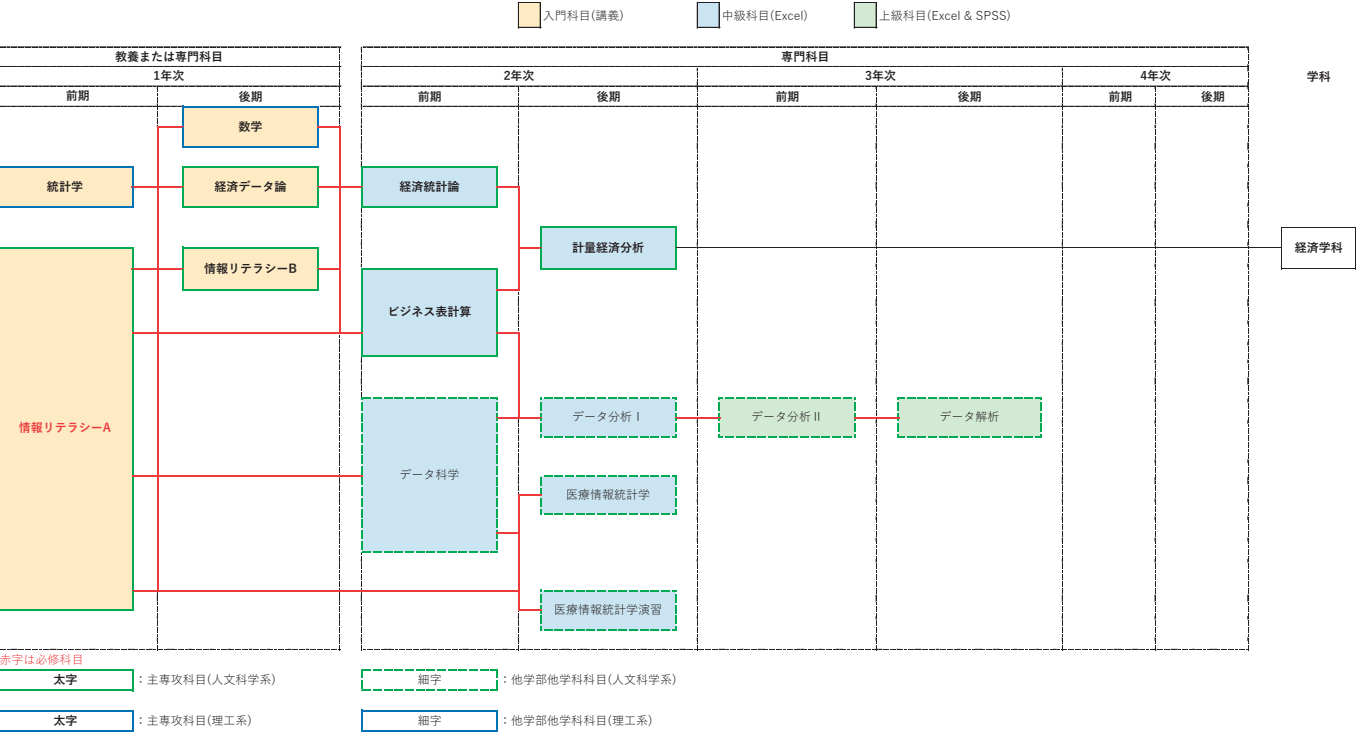
(4) 副専攻の修了要件等

データサイエンス副専攻を修了するためには、所属する学部・学科が定める卒業の要件を充足した上で、中級・上級科目2単位を含む12単位以上を修得する必要があります。副専攻を修了した者には、副専攻修了証を交付します。交付を希望する者は、所定の手続きを教務課で行わなければなりません。

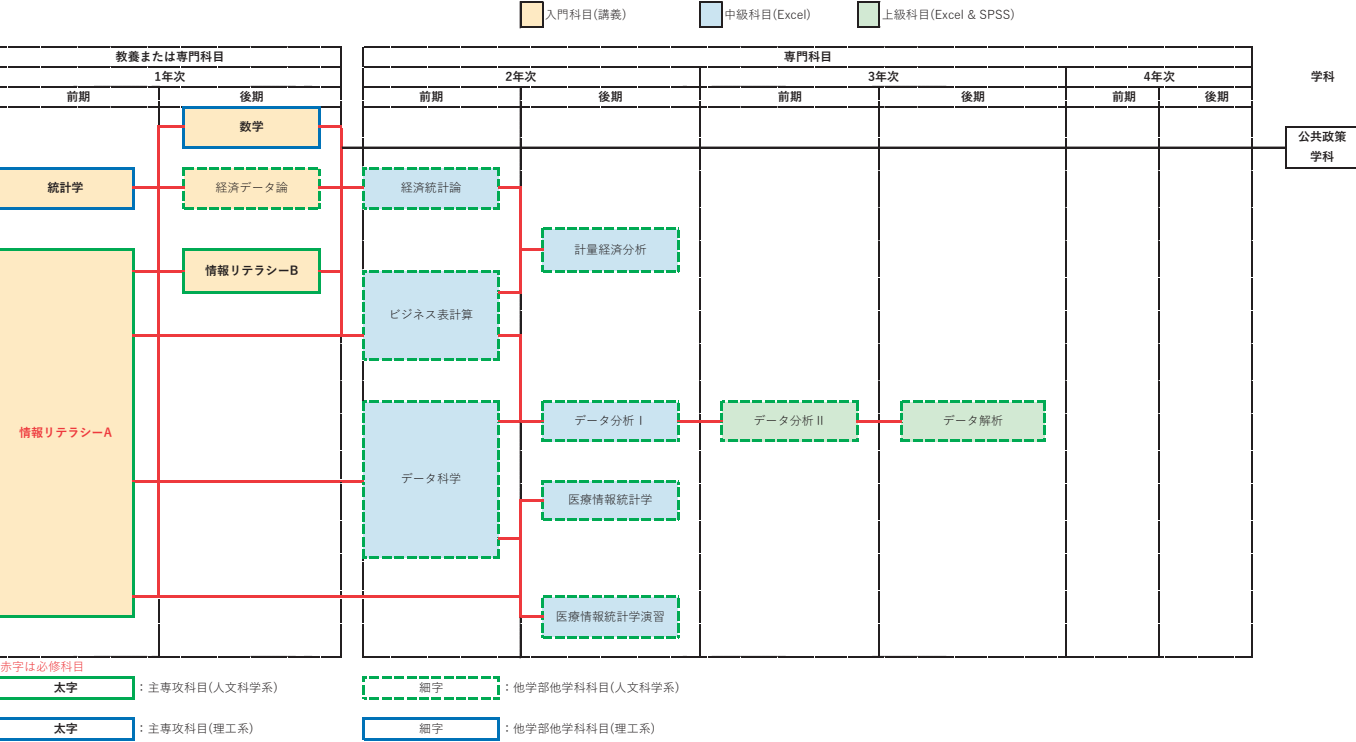
(5) データサイエンス副専攻 教育課程〔2023年度以降入学者に適用〕

区分	科目名	単位	開講年次	開講する学部・学科
入門	情報リテラシー A	2	1	全学部全学科
	情報リテラシー B	2	1	全学部全学科
	統計学	2	1	全学部全学科
	数学	2	1	全学部全学科
	経済データ論	2	1	経済学部経済学科
	特別講義 (データサイエンス関係科目)	2	1	経済学部経済学科・公共政策学科 経営学部スポーツ経営学科・情報メディア学科
中級	経済統計論	2	2	経済学部経済学科・公共政策学科
	計量経済分析	2	2	経済学部経済学科
	ビジネス表計算	2	2	経済学部経済学科 経営学部スポーツ経営学科・情報メディア学科
	データ科学	2	2	経営学部スポーツ経営学科・情報メディア学科
	データ分析 I	2	2	経営学部情報メディア学科
	医療情報統計学	2	2	看護学部看護学科
	医療情報統計学演習	2	2	看護学部看護学科
	特別講義 (データサイエンス関係科目)	2	1	経済学部経済学科・公共政策学科 経営学部スポーツ経営学科・情報メディア学科
上級	データ分析 II	2	3	経営学部情報メディア学科
	データ解析	2	3	経営学部情報メディア学科
	特別講義 (データサイエンス関係科目)	2	1	経済学部経済学科・公共政策学科 経営学部スポーツ経営学科・情報メディア学科

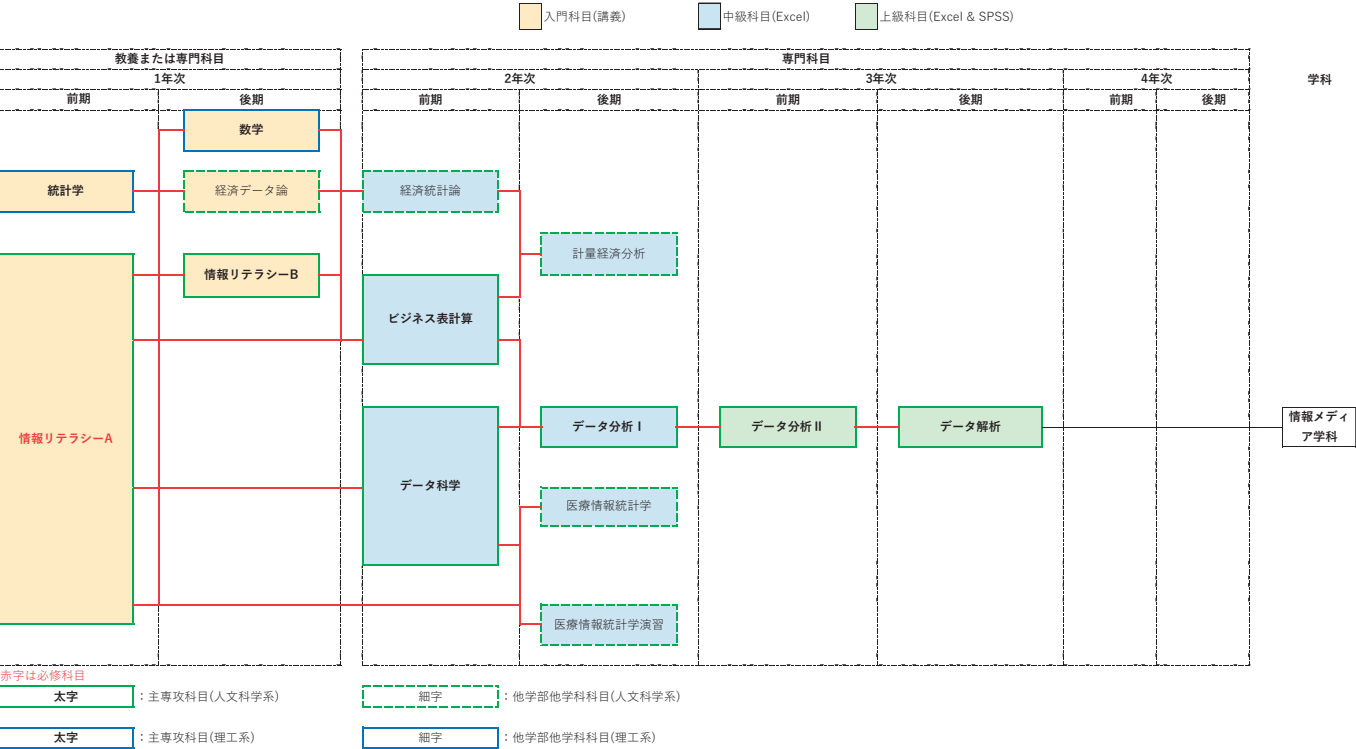
データサイエンス カリキュラムマップ 経済学科



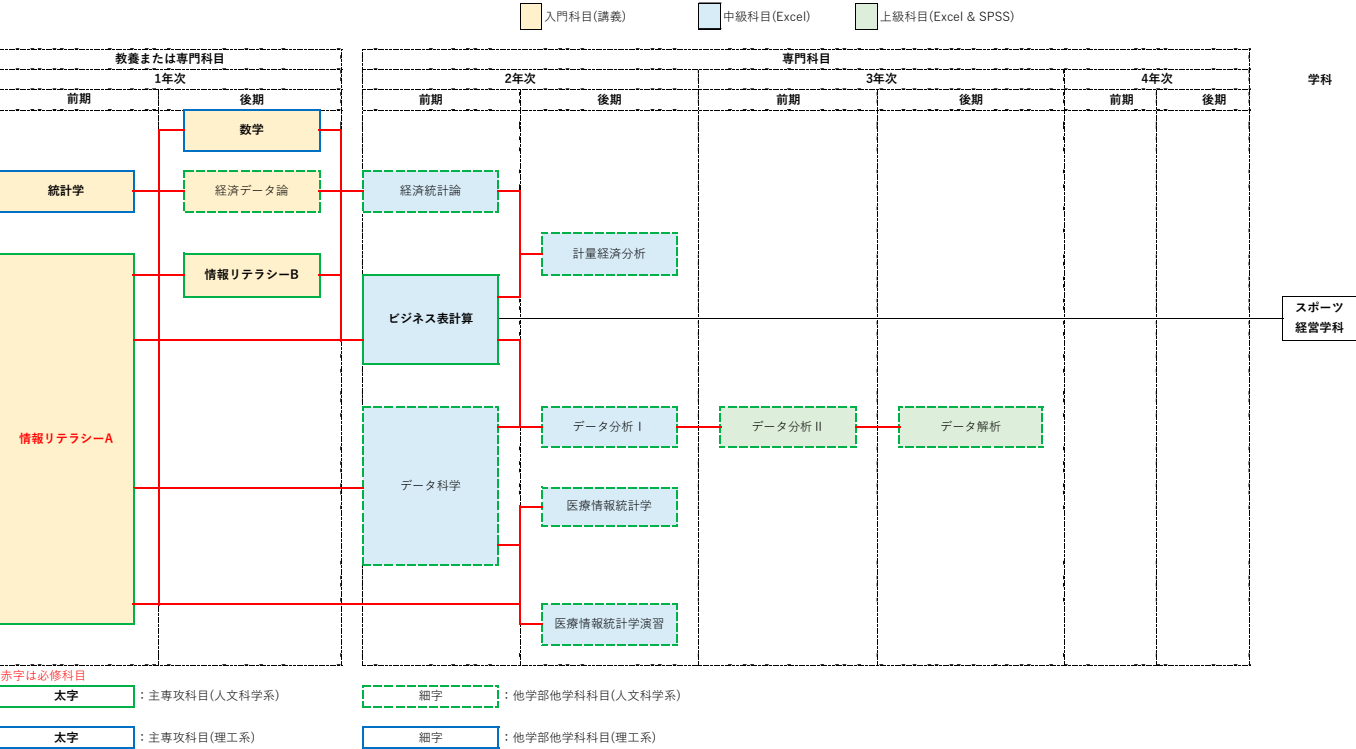
データサイエンス カリキュラムマップ 公共政策学科



データサイエンス カリキュラムマップ 情報メディア学科



データサイエンス カリキュラムマップ スポーツ経営学科



学生要覧

【看護学部】

2023年度

岐阜協立大学

憲法」は卒業要件の単位数には含まれません。保健師教育課程履修モデルは27ページを参照してください。

5) 選抜申請要件

2年次後期に実施する選抜試験の受験は、次の2つの条件をすべて満たしていることが条件です。

- (1) 2年次後期に開講される「疫学Ⅱ」を履修していること
- (2) 2年次後期までの必修科目、および選択必修科目すべての単位を修得していること

6) 選抜方法、選抜基準

選抜試験申請書を提出した学生に対して、小論文プレゼンテーションおよび面接による試験を行い、別に定める評価基準に基づいて、選考します。選抜試験の結果発表は2年次後期終了後に行います。

7) 選抜定員

選抜試験で基準点をみたす上位20名以内を選抜します。

8) 履修の取りやめ

集中講義や演習の単位修得ができない等の事情により、保健師教育課程の履修を取りやめたい場合は、公衆衛生看護学担当の教員に相談してください。履修辞退届の提出が必要となります。

9) 保健師教育課程に関連する4年間のスケジュール

時 期	内 容
1年次4月	入学時オリエンテーションにて保健師教育課程ガイダンス
通年	※養護教諭二種取得希望者 「体育実技A・B」または「健康とスポーツ」、及び「日本国憲法」の選択履修
2年次4月	新学年オリエンテーションにて保健師教育課程ガイダンス
後期科目履修登録前	保健師教育課程履修説明会
後期	「疫学Ⅱ」履修 選抜試験ガイダンス、選抜試験申請手続き、選抜試験、選抜試験結果発表
3年次前期	保健師教育課程開設
3年次後期	保健師教育課程集中講義
4年次前期	保健師教育課程集中講義（演習・実習）
後期	保健師国家試験受験対策講義
2月	保健師国家試験受験
3月	保健師国家試験合格発表

8 データサイエンス副専攻

副専攻は、多様な科目からテーマに合致する授業科目を一つのまとまりを持った学問領域として体系的に構成し、主体的な学びの機会を提供するものです。

データサイエンスは、デジタル社会の「読み・書き・そろばん」と言われ、統計学やIT、数学、経営学などさまざまな研究分野から成り立つ学問です。私たちは、社会生活のすべてのシーンでデータを使っています。この先も人工知能（AI）の助けを借りながら、社会活動のすべてがデータとして蓄積され、瞬時に解析され、問題があればそれを発見し、対処していく必要があるでしょう。データサイエンスを扱うには、理系の情報などの知見が必要ですが、人文社会系の学問も重要視されています。データサイエンス副専攻は、文理融合を軸とし、これからの社会でよりニーズが高まるデータサイエンスのスキルを身につけることで、さまざまなキャリアへの道を切り拓くことができます。

(1) データサイエンス副専攻 学修の目的

1. 学部を問わず、卒業後の社会で必要とされるデータサイエンスの活用の基礎力を育成すること。
2. データサイエンスの進歩による社会の変化、技術の革新に対応する柔軟な力を養うこと。

(2) データサイエンス副専攻の学修により期待される人物像

【看護学部】

現代医療では、客観的エビデンスに基づくケアが常に求められています。看護の専門職は、対象個人のニーズを捉えて直接ケアする能力とともに、社会の人々が健康を維持・増進したり、疾病からの回復支援や悪化させず共存していくための看護支援を創造する責務を担っています。看護学部副専攻「データサイエンス」では、どのような援助がどのような事象をどの程度改善し、対象となる人々により効果的な看護を提供し得るのか、データ解析が看護の本質の追究にもたらす意義の理解や、既存のデータを看護活動に応用できる基礎的能力を備えた人材を育成します。

(3) 副専攻登録

副専攻の課程を履修するには、各年次の履修登録時に所定の副専攻登録を行わなければなりません。課程登録には、特別な費用はありません。

(4) 副専攻の修了要件等

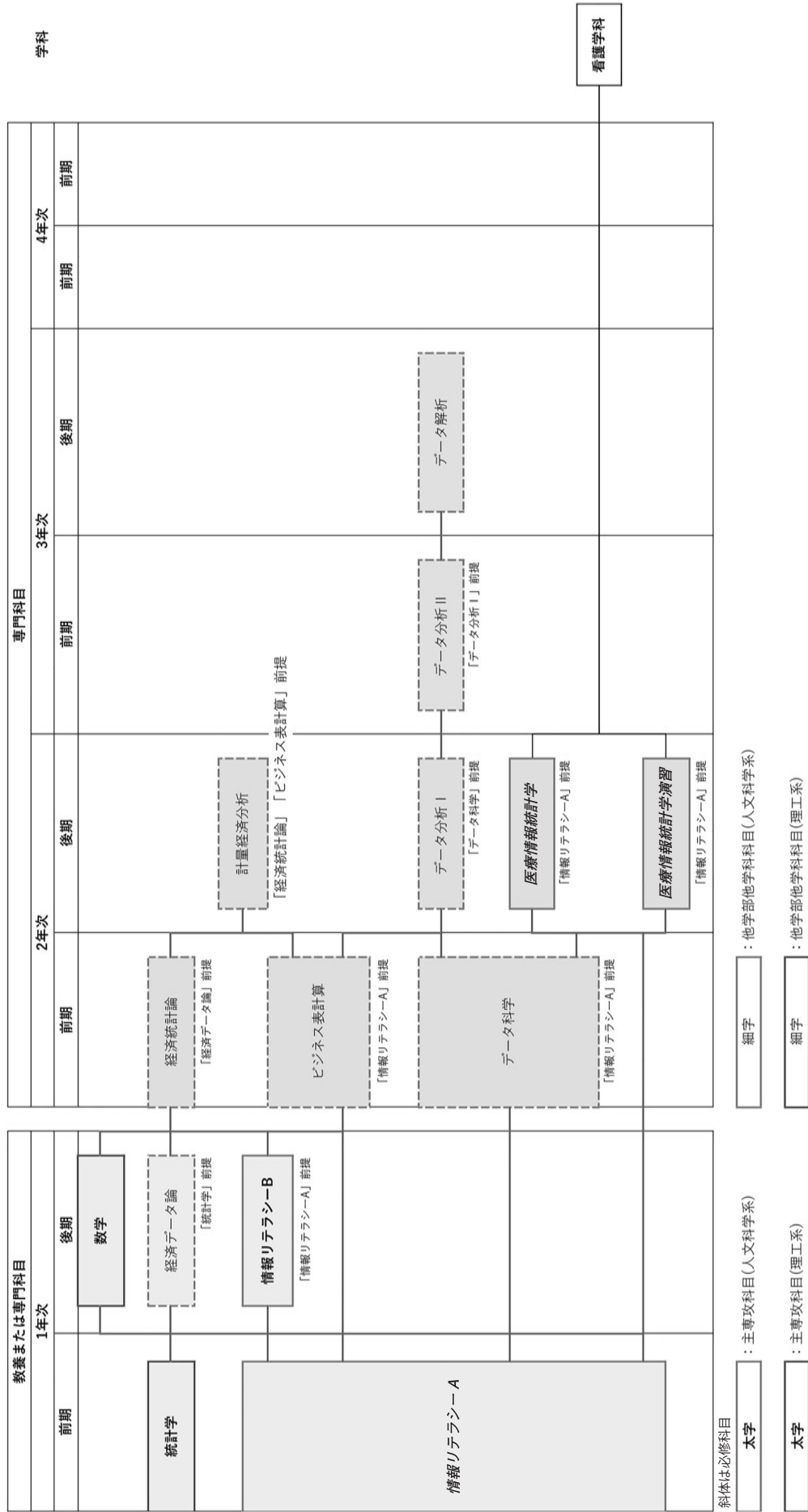
データサイエンス副専攻を修了するためには、所属する学部・学科が定める卒業の要件を充足した上で、中級・上級科目2単位を含む12単位以上を修得する必要があります。副専攻を修了した者には、副専攻修了証を交付します。交付を希望する者は、所定の手続きを教務課で行わなければなりません。

(5) データサイエンス副専攻 教育課程〔2023年度以降入学者に適用〕

区分	科目名	単位	開講年次	開講する学部・学科
入門	情報リテラシー A	2	1	全学部全学科
	情報リテラシー B	2	1	全学部全学科
	統計学	2	1	全学部全学科
	数学	2	1	全学部全学科
	経済データ論	2	1	経済学部経済学科
	特別講義 (データサイエンス関係科目)	2	1	経済学部経済学科・公共政策学科 経営学部スポーツ経営学科・情報メディア学科
中級	経済統計論	2	2	経済学部経済学科・公共政策学科
	計量経済分析	2	2	経済学部経済学科
	ビジネス表計算	2	2	経済学部経済学科 経営学部スポーツ経営学科・情報メディア学科
	データ科学	2	2	経営学部スポーツ経営学科・情報メディア学科
	データ分析 I	2	2	経営学部情報メディア学科
	医療情報統計学	2	2	看護学部看護学科
	医療情報統計学演習	2	2	看護学部看護学科
	特別講義 (データサイエンス関係科目)	2	1	経済学部経済学科・公共政策学科 経営学部スポーツ経営学科・情報メディア学科
上級	データ分析 II	2	3	経営学部情報メディア学科
	データ解析	2	3	経営学部情報メディア学科
	特別講義 (データサイエンス関係科目)	2	1	経済学部経済学科・公共政策学科 経営学部スポーツ経営学科・情報メディア学科

データサイエンスカリキュラムマップ 看護学科

入門科目(講義) 中級科目(Excel) 上級科目(Excel & SPSS)



副専攻運営委員会規則

(制定 2023年4月1日)

(目的)

第1条 副専攻科目における授業実施、その他、関連事項に関する連絡・調整を行うため、副専攻運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(運営委員会)

第2条 運営委員会は、副専攻ごとに設置する。

(運営委員会の構成)

第3条 運営委員会は、次の者をもって構成する。

(1) 教務部長

(2) 副専攻科目を担当する専任教員

(3) 教務課長

(4) 副専攻担当教務課職員 1名

(5) その他、副専攻運営に必要な応じて委員長の指名する者

(委員長等及びその職務)

第4条 運営委員会は教務部長が委員長となりこれを召集し、その議長となる。

2 議長に事故等があり、委員会に参加できないとき、構成員の互選により議長を決定する。

(運営委員会の協議事項)

第5条 運営委員会は次の事項について協議する。

(1) 副専攻の修了者に関する事項

(2) 開講科目に関する事項

(3) 履修方法に関する事項

(4) 授業運営に必要な施設・設備等に関する事項

(5) 年次報告に関する事項（自己点検評価を含む。）

(6) その他、副専攻の運営に必要な事項

(改廃)

第6条 この規則の改廃は、協議会の議を経て、学長が決定する。

(事務)

第7条 運営委員会事務は、教務課がこれを担当する。

附 則

この規則は、2023年4月1日から施行する。

副専攻運営委員会規則

(制定 2023年4月1日)

(目的)

第1条 副専攻科目における授業実施、その他、関連事項に関する連絡・調整を行うため、副専攻運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(運営委員会)

第2条 運営委員会は、副専攻ごとに設置する。

(運営委員会の構成)

第3条 運営委員会は、次の者をもって構成する。

(1) 教務部長

(2) 副専攻科目を担当する専任教員

(3) 教務課長

(4) 副専攻担当教務課職員 1名

(5) その他、副専攻運営に必要な応じて委員長の指名する者

(委員長等及びその職務)

第4条 運営委員会は教務部長が委員長となりこれを召集し、その議長となる。

2 議長に事故等があり、委員会に参加できないとき、構成員の互選により議長を決定する。

(運営委員会の協議事項)

第5条 運営委員会は次の事項について協議する。

(1) 副専攻の修了者に関する事項

(2) 開講科目に関する事項

(3) 履修方法に関する事項

(4) 授業運営に必要な施設・設備等に関する事項

(5) 年次報告に関する事項（自己点検評価を含む。）

(6) その他、副専攻の運営に必要な事項

(改廃)

第6条 この規則の改廃は、協議会の議を経て、学長が決定する。

(事務)

第7条 運営委員会事務は、教務課がこれを担当する。

附 則

この規則は、2023年4月1日から施行する。

大学等名	岐阜協立大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	データサイエンス副専攻リテラシーレベル	申請年度	令和6年度

取組概要

①データサイエンス副専攻 学修の目的

1. 学部を問わず、卒業後の社会で必要とされるデータサイエンスの活用の基礎力を育成すること。
2. データサイエンスの進歩による社会の変化、技術の革新に対応する柔軟な力を養うこと。

②データサイエンス副専攻の学修により期待される人物像

【経済学部】

現実の経済社会が直面する課題解決のための立案・評価には、証拠（エビデンス）に基づく政策立案（EBPM: evidence-based policy making）が必要です。経済統計をはじめとする様々な客観的データを適切に読み取り、経済理論にもとづいてデータを分析することで、課題の現状と解決の可能性を探っていくことが可能となります。近年、データについての適切な読み取り方、分析の考え方・方法などは、経済・経営・看護などの専門分野・研究対象に関わらず「データサイエンス」の理解と能力として共通化されています。経済学部の副専攻「データサイエンス」では、経済学の論理的・実証的な考え方に加えて、「データサイエンス」の知識・技術の基本を習得し、データにもとづく様々な議論・検証に参加できる能力をもった人材の育成を目指します。

【経営学部】

DX（デジタルトランスフォーメーション）推進のベースとなるのは、「データサイエンス」の素養であり、それを担う専門家であるデータサイエンティストは、現代でもっとも需要が高い職業の一つとされています。もちろんデータサイエンティストに必要な知識やスキルは、理系の技術のみならず、ビジネス・スキルとデータ分析能力も必要になってきます。経営学部の副専攻「データサイエンス」では、データ分析能力を持ったビジネス・パーソンを目指します。

事例



様々な地域のデータを分析し地域の課題解決に取り組む地方公務員など

データサイエンスのスキルを営業活動等に活用し、民間企業で成果をあげ、将来を期待される人材など

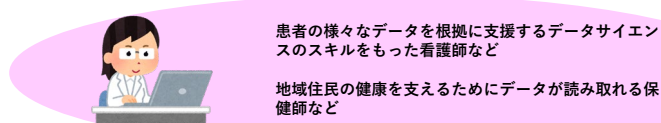
地域の防犯活動、防災活動をデータ分析した結果に基づいて活動できる警察官や消防士など

データサイエンティストの資格をもち、より高度なスキルを使って民間企業などで、企画や戦略関係の仕事に携わる人材など

【看護学部】

現代医療では、客観的エビデンスに基づくケアが常に求められています。看護の専門職は、対象個人のニーズを捉えて直接ケアする能力とともに、社会の人々が健康を維持・増進したり、疾病からの回復支援や悪化させず共存していくための看護支援を創造する責務を担っています。看護学部副専攻「データサイエンス」では、どのような援助がどのような事象をどの程度改善し、対象となる人々により効果的な看護を提供し得るのか、データ解析が看護の本質の追究にもたらす意義の理解や、既存のデータを看護活動に応用できる基礎的能力を備えた人材を育成します。

事例



患者の様々なデータを根拠に支援するデータサイエンスのスキルをもった看護師など

地域住民の健康を支えるためにデータが読み取れる保健師など

③データサイエンス副専攻 開講されている科目の構成

区分	科目名	単位	開講年次	開講する学部・学科
入門	情報リテラシー A	2	1	全学部全学科
	情報リテラシー B	2	1	全学部全学科
	統計学	2	1	全学部全学科
	数学	2	1	全学部全学科
	経済データ論	2	1	経済学部経済学科
	特別講義 (データサイエンス関係科目)	2	1	経済学部経済学科・公共政策学科 経営学部スポーツ経営学科・情報メディア学科
中級	経済統計論	2	2	経済学部経済学科・公共政策学科
	計量経済分析	2	2	経済学部経済学科
	ビジネス表計算	2	2	経済学部経済学科 経営学部スポーツ経営学科・情報メディア学科
	データ科学	2	2	経営学部スポーツ経営学科・情報メディア学科
	データ分析Ⅰ	2	2	経営学部情報メディア学科
	医療情報統計学	2	2	看護学部看護学科
	医療情報統計学演習	2	2	看護学部看護学科
	特別講義 (データサイエンス関係科目)	2	1	経済学部経済学科・公共政策学科 経営学部スポーツ経営学科・情報メディア学科
上級	データ分析Ⅱ	2	3	経営学部情報メディア学科
	データ解析	2	3	経営学部情報メディア学科
	特別講義 (データサイエンス関係科目)	2	1	経済学部経済学科・公共政策学科 経営学部スポーツ経営学科・情報メディア学科

「情報リテラシーA」「統計学」の2科目（4単位）を、データサイエンス活用の基礎力を育成するためのリテラシーレベルの科目と位置づけています。

データサイエンス副専攻
リテラシーレベル

④データサイエンス副専攻の修了要件

データサイエンス副専攻を修了するためには、所属する学部・学科が定める卒業の要件を充足した上で、中級・上級科目2単位を含む12単位以上を修得する必要があります。（データサイエンス副専攻リテラシーレベルは、「情報リテラシーA」「統計学」の2科目4単位となります。）

⑤教育の質等を向上させるための体制について

データサイエンス副専攻運営委員会を設置し、同委員会において、

- (1) 副専攻の修了者に関する事項
- (2) 開講科目に関する事項
- (3) 履修方法に関する事項
- (4) 授業運営に必要な施設・設備等に関する事項
- (5) 年次報告に関する事項（自己点検評価を含む。）
- (6) その他、副専攻の運営に必要な事項

以上の事項について協議することとしており、教育の質等を向上させるための体制を整えています。